

事業名 千葉ニュータウン「いには野」 のまちづくり

「健康と安心のまち」を謳い、地区全体のバリアフリー化を中心とした「人にやさしいまちづくり」事業

受賞機関 都市基盤整備公団千葉地域支社
千葉ニュータウン事業本部

事業実施期間 平成9年1月～平成12年3月

事業費 1,380,000百万円（全体）



歩いて暮せる「徒歩圏」のまち

技術等の特徴と評価

新市街地の整備にあたり、少子・高齢化や自然・環境指向の高まりといった社会状況を的確に捉えると同時に、生活関連施設を徒歩圏に配置したり、まち全体のバリアフリー化を図るなど、まちに暮らす人々の立場に立った心配りがなされており、「人」の立場から今後のまちづくりの一つの方向性を示す事業であるとともに、これらの工夫の大半がローコスト技術の組み合わせで実現可能なことを示した点が評価される。

事業の概要と効果

「健康と安心のまち」を謳う「いには野」は、「人が暮らす街としての『基本性能』を追求したまちづくり」といえる。

特色は次のとおりで、街中に様々な工夫がなされ、地域の人々が利用しやすいように施設配置やバリアフリー化がなされている。

(1) 歩いて暮らせる「徒歩圏のまち」

学校、スーパー・店舗、役場、病院、公園など、日々の暮らしに必要な施設が、駅を中心に半径1km以内にコンパクトに設置され、日常生活をほとんど「歩いて」過ごせる。

(2) まち全体が「バリアフリー」

いには野では、街全体を低勾配（5%以下）の歩行路でネットすることを基本に、段差も最小限に抑えて歩行時の上下の動きを減らし、大半の歩道に点字誘導



まち全体がバリアフリー

ブロックを配するなど、駅舎などの主要施設も含め、「都市の基盤レベルで」工夫を施し、街全体のバリアフリー化を実現した。

「いには野」は、「少子・高齢社会、自然・環境指向、地域交流・コミュニティ活動指向、ゆとり・癒し指向、精神・文化指向」といった21世紀の社会動態や郊外都市居住者の指向への対応を目指しており、街中に見られる種々の工夫がなされている。また、初期整備及び維持管理のコスト面についても新たなコストの発生・増大をなるべく避け、大半は既存のローコスト技術の組み合わせとなっており、これからのまちづくりを考える上で参考になる。

受賞賛助会員 アイサワ工業(株)、(株)浅沼組東京本店、(株)大林組、(株)奥村組、オリエンタル建設(株)、鹿島建設(株)、(株)熊谷組、小松建設工業(株)東京土木支店、五洋建設(株)、セントラルコンサルタント(株)、(株)地崎工業、(株)千代田コンサルタント、東急建設(株)、日本国土開発(株)、(株)ピー・エス、丸紅建設(株)